

第六 患者ノ職業、年齡

一 患者ノ職業、年齡別表 (大正九年)

職業別	年齡別		實數	實數
	下歲十滿以下	上歲十以上		
農耕、畜産、蠶業	17	17	34	0.17
林業	1	1	2	0.01
漁業、製鹽業	1	1	2	0.01
採礦、冶金業	1	1	2	0.01
土石採取業	1	1	2	0.01
窯業	1	1	2	0.01
金屬工業	1	1	2	0.01
機械器具製造業	1	1	2	0.01
化學工業	1	1	2	0.01
纖維工業	1	1	2	0.01
紙工業	1	1	2	0.01
皮革、骨、角、甲、羽毛品類製造業	1	1	2	0.01
木、竹類製造業	1	1	2	0.01
飲食料品、嗜好品製造業	1	1	2	0.01
被服、身ノ廻リ業	1	1	2	0.01
土木建築業	1	1	2	0.01
製版、印刷業	1	1	2	0.01
學藝、娯樂、裝飾品製造業	1	1	2	0.01
瓦斯、電氣及天然力利用業	1	1	2	0.01
其他ノ工業	1	1	2	0.01
物品販賣業	1	1	2	0.01
媒介周旋業	1	1	2	0.01
金融保險業	1	1	2	0.01
物品貨貸業	1	1	2	0.01
預貯、飲食店、浴場、娯樂等	1	1	2	0.01
其他ノ商業	1	1	2	0.01
通信業	1	1	2	0.01
運輸業	1	1	2	0.01
陸海軍人	1	1	2	0.01
無職	1	1	2	0.01
合計	17	17	34	0.17

職業別	年齡別		實數	實數
	下歲十滿以下	上歲十以上		
農耕、畜産、蠶業	17	17	34	0.17
林業	1	1	2	0.01
漁業、製鹽業	1	1	2	0.01
採礦、冶金業	1	1	2	0.01
土石採取業	1	1	2	0.01
窯業	1	1	2	0.01
金屬工業	1	1	2	0.01
機械器具製造業	1	1	2	0.01
化學工業	1	1	2	0.01
纖維工業	1	1	2	0.01
紙工業	1	1	2	0.01
皮革、骨、角、甲、羽毛品類製造業	1	1	2	0.01
木、竹類製造業	1	1	2	0.01
飲食料品、嗜好品製造業	1	1	2	0.01
被服、身ノ廻リ業	1	1	2	0.01
土木建築業	1	1	2	0.01
製版、印刷業	1	1	2	0.01
學藝、娯樂、裝飾品製造業	1	1	2	0.01
瓦斯、電氣及天然力利用業	1	1	2	0.01
其他ノ工業	1	1	2	0.01
物品販賣業	1	1	2	0.01
媒介周旋業	1	1	2	0.01
金融保險業	1	1	2	0.01
物品貨貸業	1	1	2	0.01
預貯、飲食店、浴場、娯樂等	1	1	2	0.01
其他ノ商業	1	1	2	0.01
通信業	1	1	2	0.01
運輸業	1	1	2	0.01
陸海軍人	1	1	2	0.01
無職	1	1	2	0.01
合計	17	17	34	0.17

職業別	年齢別		職業別										計	
	有職	無職	官吏、公吏、雇傭	宗教ニ關スル業	教育ニ關スル業	醫務ニ關スル業	法務ニ關スル業	記者著述者	藝術家	其他ノ自由業	其他ノ有業者	家事使用人		收入ニ依ル者
下歳滿以五	213	14	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下歳滿以十	1063	21	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
以五滿下歳十	2124	102	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
以十滿下歳二	2785	165	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下歳十滿以五二	3126	227	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
以十滿下歳三	2572	311	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下歳十滿以五三	2999	444	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
以十滿下歳四	3398	559	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下歳十滿以五四	2553	675	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
以十滿下歳五	2933	793	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下歳十滿以五五	2525	912	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
以十滿下歳六	2688	1031	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下歳十滿以五六	2483	1150	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
以十滿下歳七	2203	1269	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上歳七以十	1068	1388	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	28468	2328	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中無職	2328	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有職	26140	2328	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	28468	2328	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

合	計		有職	無職	合計
	同中	別年			
11-10	1110	1110	1110	0	1110
10-09	2220	2220	2220	0	2220
09-08	3330	3330	3330	0	3330
08-07	4440	4440	4440	0	4440
07-06	5550	5550	5550	0	5550
06-05	6660	6660	6660	0	6660
05-04	7770	7770	7770	0	7770
04-03	8880	8880	8880	0	8880
03-02	9990	9990	9990	0	9990
02-01	11100	11100	11100	0	11100
01-00	12200	12200	12200	0	12200
合計	110000	110000	110000	0	110000

備考 一、道府縣ヨリノ回答中單ニ「社員」トアル等大正九年内閣訓令第一號國勢調査ニ用ユヘキ職業分類ノ中分類ニ據ルヲ得サリシモノハ本表ヨリ除外セリ

二、本表ニ使用セル年齢別人口ハ第四十一年統計年鑑本籍人口別ニ據レリ

二 觀 察

一 職業別患者發生ノ多少

患者職業別ノ百分比例ニ於テ最多キハ「農耕、畜産、蠶業」ノ四四・八二ニシテ之ニ次クハ「物品販賣業」ノ一〇・〇五、無職業ノ六・四五及其ノ他ノ有業者ノ五・二六トスルモ前位ニ比シテ著シキ間隔ヲ示セリ、其ノ他ノ部類ニテ「繊維工業」ニ多キハ「紡績工場等」ノ集團生活者ニ多キ事實ノ影響ト認メ得ヘク「探鑛、冶金業」ニ多キモ、亦同一ナルヘシ、漁業、製鹽業「土木、建築業」「官吏、雇傭」ニ相當數ヲ示スモ特ニ解説スヘキ理由ヲ發見スル能ハス、由來本調査表ハ人口構成ノ全體ニ對スル職業別ヲ基礎トシテ對比スヘキモノナルモ本邦統計ニ未タ憑ルヘキモノナキヲ以テ遺憾ナカラ只其ノ事實ヲ示スニ過キサルハ止ムヲ得サルモノトス

全患者ヲ有職無職別ニ觀察スルニ有職者ニアリテハ十五歳以上二十五歳以上ニ最多ク其ノ百

分比例ハ全有職者ノ三八・七七ヲ占ム、無職者ニアリテハ五歳以上十五歳以下ニ最多ク其ノ百分比例ハ全無職者ノ四八・八・五ニ當レリ

二、患者年齢別

人口萬ニ對スル患者ノ割合ハ九・五〇ナルモ就中此率最高キハ二十歳以上二十五歳以下ノモノニシテ同年齡別人口萬ニ付一七・六八ニ當リ、十五歳以上二十歳以下ノモノ一七・二〇之ニ次ケリ

第七 患者ノ發生又ハ蔓延ヲ防止シ得タリト認ムヘ

キ施設事例

患者ノ發生又ハ蔓延ヲ防止シ得タリト認ムヘキ施設事例トシテ道廳府縣ヨリ報告アリタルモノ種々アリト雖主タル施設ヲ以テ其ノ事例ヲ分テハ左ノ如シ

- 一、豫防接種ニ因ルモノ
- 二、飲料水ノ改良ニ因ルモノ
- 三、使用水ノ改良ニ因ルモノ
- 四、下水ノ改良ニ因ルモノ
- 五、病原體保有者ノ調査ニ因ルモノ
- 六、其ノ他ノ施設ニ因ルモノ

而シテ其ノ事例中豫防接種ニ因レルモノ最多ク飲料水ノ改良ニ因レルモノ之ニ次キ爾他ノ施設ニ因ルモノハ極メテ少シ、參考トナルヘキ數箇ノ施設事例ヲ採録スレハ左ノ如シ

一 豫防接種ニ因ルモノ (十五例)

第一例 北海道古宇野郡泊村大字盃村

一、施行ノ時

大正三年三月

二、施行スルニ至リシ由來及其ノ内容

古宇野郡泊村大字盃村與志内ハ古來ヨリ腸チフスノ發生アリ、一般住民ハ衛生思想幼稚ニテ豫防方法ニ苦心中ノ處豫防接種ヲ勸誘シタル結果、同宇衛生組合長等ノ活動ニ依リ之ヲ施行スルニ至レリ

三、施行ノ方法

盃村與志内衛生組合費ヲ以テ豫防液ヲ購入シ一人金五錢ヲ徴シテ注射スルコトトシ、組合役員、警察官吏ハ接種ノ効果ヲ宣傳シタル結果、住民モ大ニ感動ヲ得テ接種スルニ至レリ

四、實施効果ノ説明

盃村與志内ハ大正二年中ハ三十七名發生シ、翌大正三年中ハ四十名發生シ益續出セントスルノ状態ナルヲ以テ同年ハ部落住民一、三三二名、大正四年ハ一、四〇〇名ニ對シ豫防接種ヲ施行シタル結果、大正四年後ニ至リ四名ノ患者發生シタルモ取調ノ結果患者ハ旅行中ノモノニシテ當時

接種ニ波レタルモノナルコト判明シ、大正四年以後ニ至リ患者減少スルニ至レリ、爾後毎年繼續シテ豫防接種ヲ勵行シツツアリ

施設實施前後ノ衛生狀況

	施設實施以前			同 上 以 後			備 考
	明治四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	
現住人口	二四六	三五七	三三二	三〇八	三一	二九二	二七二
現住人口	一、八〇七	一、七七四	一、七五二	一、七二八	一、七〇〇	一、七七六	一、六二六
總死亡數	三一	二八	二五	二六	二一	二五	二二
人口千ニ對スル死亡數	一七・一六	一五・七八	一四・二七	一五・〇五	一三・三五	一四・〇八	一三・五三
腸「チフス」患者數	一〇	六	三七	四〇	四	三	二
人口萬ニ對スル患者數	三五・三四	三三・八二	二二・一八	二二・四八	二三・五二	一六・八九	一一・三〇
腸「チフス」死亡數	二	一	一	六	一	一	一
患者百ニ對スル死亡數	二〇・〇〇	一〇〇	二七・〇	一五・〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

第二例 神奈川縣下各地患者發生部落

二 施行ノ時

患者發生シ續發蔓延ノ狀況ヲ呈セントスル時期ヲ主トス

二 施行スルニ至リシ由來

同縣下ニ於ケル患者ノ發生ハ多クハ散在性ニシテ爆發的又ハ特殊ノ流行ヲ來セルモノナク加フルニ一般ニ本病ヲ輕視スルト一ハ知識ノ低級ナルトニヨリテ一般的豫防施設モ徹底的クサルヲ以テ豫防接種ヲ勸告シ之カ施設ヲ試ミタリ

三 施設ノ内容

- (イ) 腸「チフス」感作「ワクチン」ヲ大正四年度ヨリ製造シ接種ヲ始ム
- (ロ) 感作「ワクチン」ハ菌ノ含有量液一c.c.中ニ「二」トシ、接種ハ二回接種ヲ原則トスルモ多クノ場合一回接種ニ止ムルコトアリトス
- (ハ) 患者ノ發生附近若ハ發生部落ヲ中心トシ隣接地域ニ及ホス
- (ニ) 初メテ施行スル地ニ於テハ努メテ講話會ヲ開催シ民衆ニ豫防接種ノ如何ナルモノナルカヲ理解セシメテ希望者ノミニ接種シ更ニ強要セサルノ方針ヲ採レリ

四 實施効果ノ説明

腸「チフス」豫防接種施行前後ニ於ケル患者發生率 (千分率)

	接種施行前ノ發生率		接種施行後ノ發生率		施行 部 落	發生止ミシ 部 落	發生止ミシ 村落率
	患者數	人口對%	患者數	人口對%			
大正四年	一二二	八・五	一〇	〇・七	三ヶ村ト二〇ヶ部落	一〇	四三・四
同 五年	二四六	五・八	八五	二・〇	四ヶ村ト五二ヶ部落	一五	二六・七
同 六年	九三	三・三	三四	一・三	四ヶ部落	一八	三九・一
同 七年	二五二	四・八	一〇八	二・〇	五二ヶ部落	二八	五三・八
同 八年	二六六	三・六	五四	二・〇	三七ヶ部落	七	一八・九
平均	九三九	八・八	二九一	一・七	七ヶ村ト二〇ヶ部落	一〇五	四七・七
平均	一八七八	五・七	五八二	一・七	四四・四	二二	

備考 一、接種施行以後ハ施行以前ニ比シテ患者數約三分ノ二ヲ減少セルヲ示ス
 二、患者發生部落ハ施行以後ハ其以前ニ比シテ約半數ニ減少セリ

第三例 神奈川縣足柄下郡吉濱村

一、施行ノ時

大正四年七月本病蔓延ノ傾向ヲ示セル時

二、施行スルニ至リシ由來

從來村內散在性ニ少數ナル患者ノ發生ヲ見タリシモ一般的豫防施設ニヨリ防遏セシニヨリ同
一施設ヲ以テ防止ヲ企圖セシカ其ノ効顯著ナラス益蔓延ノ傾向ヲ呈セシニ偶々郡内他村ニ於
テ豫防接種ヲ施行セルヲ聞知シ村當事者ヨリ之カ實施ヲ申請セルヲ以テ施行セルモノトス

三、施設ノ内容

腸チフス感作ワクチン豫防接種

(イ)患者ノ發生セル部落ヲ中心トシテ隣接セル部落ニ及ホシ住民ノ希望者ノミニ接種ス、部落數
ハ三ナリ

(ロ)小學校兒童ハ病者ヲ除キ全員ニ接種ス

(ハ)接種人員一般住民九百〇三人、小學校兒童五百〇七人

合計 一千四百十八

四、實施効果ノ説明

豫防接種施行後其ノ蔓延ヲ防キ得タルヲ以テ之ニ鑑ミ翌大正五年同六年患者ノ發生ヲ見サル
以前ニ於テ施行セシニ翌大正五年ハ一名ノ患者ニ止マリ翌々六年ハ一名ノ患者ヲモ見サル狀
況ニ至レリ、然ルニ住民ハ勿論村當事者ニ於テモ漸次其ノ豫防警戒緩漫ニ流レタルノ結果、昨大

正九年ニハ既往ノ狀況ニ復シテ三十有餘名ノ患者ヲ發生セシメタリ

接種施行前後ノ衛生狀況

現在人口數	接 種 施 行 以 前					接 種 施 行 以 後	
	大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同六年
現 在 人 口 數	四二二	四三二	四四七	四九六	五二九	五三五	
現 在 人 口 數	三、二二五	三、三四八	三、二九九	三、〇九〇	三、〇三三	三、〇七六	
總 死 亡 數	五五	六二	五三	五五	六四	五四	
人口千ニ對スル死亡數	一七・一一	一八・五一	一六・〇六	一七・八〇	二一・一〇	一七・五六	
腸「チフス」患者數	一	一	一	三三	一		
人口萬ニ對スル患者數	三・一一	三・〇三	三・〇三	七・四三	三・三〇		
腸「チフス」死亡數	一	一	一	五	一		
患者百ニ對スル死亡數	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二一・七三	一〇〇		

第四例 新潟縣中蒲原郡菅名村

一、施行ノ時

大正六年八月及大正七年八月

二、施行スルニ至リシ由來

明治四十四年頃ヨリ毎年患者發生シ、殊ニ大正二年及大正五年ハ大流行ヲ來シタルニ依リ、大正
六年村費參百圓ヲ投シテ豫防接種ヲ施行シタルニ、同年ハ僅ニ患者一名ノ發生ニ止マレリ、茲ニ
於テ村民其ノ効果ヲ自覺シ、大正七年再ヒ之ヲ施行セリ

三、施行ノ内容

豫防接種ハ村醫ヲシテ之ヲ爲サシメ、三歳以上六十歳迄ノ村民全部ニ接種セリ
 四、實施効果ノ説明

實施以前毎年流行シタル該病モ實施以後ハ僅ニ五名發生シタルノミナルヲ以テ其ノ効果ノ著シキヲ認ム

施設實施前後ノ衛生狀況

現住人口數	施設實施以前					施設實施以後		
	大正二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年
現住人口數	七二八	七二二	七二三	七三一	七二六	七二〇	七〇八	六九一
總死亡數	四、〇六三	四、一三七	四、一八四	四、一六二	四、一五一	四、一八四	四、〇八八	三、六六九
人口千對スル死亡數	八八	八七	一〇五	一〇五	一三八	一三四	一〇六	一〇九
腸「チフス」患者數	二、六五	二、〇五	三、五〇九	二、五二三	三、三三五	三、三〇三	二、八三八	二、九七一
人口千對スル患者數	二三	五	七	三八	一	一	三	三
腸「チフス」死亡數	五、六六一	一、三〇九	一、六七三	九一三〇	二、四一一		七三四	
腸「チフス」對スル死亡數	一三〇四	二、〇〇〇	五七、一四	二、三七				

第五例 同縣南蒲原郡加茂町ノ一部

一、施行ノ時

大正四年十二月

二、施行スルニ至リシ由來

大正四年五月以降腸チフス流行シテ患者十二名ヲ出シタルニ依リ、之カ撲滅策トシテ豫防接種

ヲ施行ス

三、施行ノ内容

加茂町一部流行地ノ住民二千名ニ對シ豫防接種ヲ施行ス

四、實施効果ノ説明

豫防接種施行ノ翌大正五年及大正六年ハ患者發生セス、其ノ効果顯著ナルヲ認ム

施設實施前後ノ衛生狀況

現住人口數	施設實施以前				施設實施以後		
	大正二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	
現住人口數	三八一	三九〇	四〇〇	四〇三	四一二	四一五	
總死亡數	二、〇二三	二、〇三二	二、〇五〇	二、一五〇	二、一五五	二、一五〇	
人口千對スル死亡數	一五	一四	一八	一六	一八	一九	
腸「チフス」患者數	七、四一	六、八九	八、七八	七、四四	八、三五	八、八四	
人口千對スル患者數	六	一	二				
腸「チフス」死亡數	二、九六五	五、八五四	三、三三三			四、六五	
腸「チフス」對スル死亡數							

第六例 同縣南蒲原郡中之島村

一、施行ノ時

大正八年十二月 大正九年五月及六月

二、施行スルニ至リシ由來

大正八年三月頃ヨリ本病流行シ患者五十八名死者九名ヲ出シ病勢猖獗ヲ極メタルヲ以テ患者發生ノ部落住民ニ對シ豫防接種ヲ施行セルニ病勢殆ト終熄ヲ告クルニ至リシニヨリ、村當局ハ此顯著ナル效果ヲ自覺シ毎年之カ施行ニ努力シツツアリ

三、施設ノ内容

村ハ毎年三百圓以上ノ豫防接種費ヲ計上シ縣ヨリハ警察醫若クハ防疫醫ヲ派遣シテ村民一般ニ對シ農閑季ヲ利用シテ豫防接種ヲ施行ス

四、實施效果ノ説明

大正八年中患者五十八名ヲ出シタルニ同年十二月豫防接種ヲ施行セル處、翌大正九年一月及二月中患者二名ヲ發生シ、同年五月及六月更ニ村民約八千名ニ之ヲ行ヒタルニ其ノ後僅ニ一名ノ患者ヲ出シタルニ過キス、且此等患者ハ何レモ接種ヲ忌避シタルモノナルコト判明シ其ノ效果顯著ナルバ何人モ疑フ者ナシ

施設實施前後ノ衛生狀況

施設實施前後ノ衛生狀況	施設實施以前					施設實施以後
	大正四年	同五年	同六年	同七年	同八年	
現住人口數	一、八三九	一、八四〇	一、八五一	一、八五二	一、八六三	一、八四四
現死亡數	一、四七四	一、四七九	一、五三九	一、五七五	一、四九九	一、五一四
總死亡數	三四六	三四四	三四三	三九七	二九七	四一六
人口千ニ對スル死亡數	三〇・一六	二七・三五	二九・六四	三三・三〇	二五・八三	三六・一三
腸「チフス」患者數	二七	三	二二	五	五八	三
人口萬ニ對スル患者數	三三・五三	二・六一	一・八二〇	四・三三	五〇・四四	三・六一

腸「チフス」死亡數	患者百ニ對スル死亡數
七	二五・九三
二	六六・六七
四	一九〇・五
三	六〇〇・〇
九	一五・五二
一	三三・三三

第七例 三重縣員辨郡久米村大字坂井

一、施行ノ時

大正七年八月二十三日

二、施行スルニ至リシ由來

大正七年八月十九日腸チフス患者二名發生セル外、當時同字民中ニ熱發患者多數アルヲ發見シタルヲ以テ、検査材料ヲ採取シ検査ノ結果七名ノ新患者ヲ發見セルヲ以テ、病毒ハ廣ク蔓延シ居ルモノト認メ之カ豫防施設ヲ爲スニ至リシモノナリ

三、施設ノ内容

同字居住者ニ對シ二回ニ亘リテ腸チフス「感作」ワクチンヲ注射ヲ施行シ、豫テ同字全戸(四十一戸)ニ對シテ五千倍昇汞水及石灰ヲ配布シ、食前及用便後ニハ昇汞水ヲ以テ洗手セシメ、大小便ニハ石灰ヲ撒布セシメタリ

四、實施效果ノ説明

施設施行後患者ノ發生セサルヨリ見レハ大ニ効果アリタルモノト認メラル

施設實施前後ノ衛生狀況

現住人口 現住人口 總死亡數	施設實施以前			同以後		備考
	大正五年	同六年	同七年	同八年	同九年	
現住人口 三九	三九	三九	四一	四〇	四〇	
現住人口 一九五	一九五	二〇一	二〇八	二〇三	二二二	
總死亡數 八	八	七	五	二	七	
人口千ニ對スル死亡數 四・一〇二	四・一〇二	三・四八三	二・四〇四	九・八五	三・三〇二	
腸「チフス」患者數						
人口萬ニ對スル患者數						
腸「チフス」死亡數						
患者百ニ對スル死亡數						

第八例 同縣一志郡川口村字杉ヶ瀬及吹毛

一、施行ノ時

大正八年 自八月十五日 至九月十四日

二、施行スルニ至リシ由來

本村ハ大正元年ヨリ毎年多數ノ患者發生シ、年々多大ノ豫防費ヲ費シテ之レカ病毒ノ撲滅ニ努ムト雖根絶セズ、然モ大正八年ハ何レモ悪性ニシテ死亡スルモノ多ク爲ニ極力豫防消毒ニ努メタルモ尙猖獗シテ止ラサリシヲ以テ區民一般ニ對シ豫防接種ヲ勸誘セルモ容易ニ實行ヲ見ル能ハサリシカ、再三再四懇諭シタル結果漸ク之カ實行ヲ見ルニ至レルモノナリ

三、施設ノ内容

兩區民約八百五十名ニ對シ腸「チフス」感作「ワクチン」ノ注射ヲ施行スルト共ニ石油乳劑ノ各戸配

布、蠅ノ買上、健康診断ノ勵行等ヲ爲セリ

四、實施效果ノ説明

豫防接種施行後全ク患者ノ發生ヲ見ス、村民一般ニ豫防接種ノ効果ヲ會得シ、其ノ後ハ自費ヲ以テ進ンテ注射ヲ受クルモノアルニ至レリ、大正九年一名患者發生セルモ調査ノ結果右ハ大正八年施行シタル豫防接種ヲ嫌忌シテ之ヲ受ケサリシ事實ヲ發見セリ、村民豫防接種ノ効果ヲ賞シ且其ノ祝トシテ村芝居ヲ舉行セリト云フ

施設實施前後ノ衛生狀況

現住人口 現住人口 總死亡數	施設實施以前			同以後		備考
	大正六年	同八年	同九年	同十年	同十一年	
現住人口 六二七	六二七	六三五	六三八	六四二	六四二	
現住人口 三、一九二	三、一九二	三、三三五	三、二五三	三、二七六	三、二七六	
總死亡數 一一五	一一五	八九	九八	四二	四二	
人口千ニ對スル死亡數 三・九一六	三・九一六	二・七五一	三・〇一三	一・二八二	一・二八二	
腸「チフス」患者數	一八	三三	一			
人口萬ニ對スル患者數	五・六三九	一〇・一〇〇	三・〇七			
腸「チフス」死亡數	四	八				
患者百ニ對スル死亡數	二二・三三	二四・二四				

第九例 同縣北牟婁郡尾鷲町

一、施行ノ時

大正九年 第一回 自一月二十日 至一月三十日
第二回 自十月二十五日 至十一月一日
第三回 自十月二十五日 至十一月一日

二、施行スルニ至リシ由來

尾鷲町ハ毎年多數患者ノ發生ヲ見タルヲ以テ極力之カ豫防撲滅ニ努ムルモ根絶セス、殊ニ大正八年九月六人ノ家族中三人同病ニ罹リ内二名死亡シタル悲惨ナル實例アリ、爲ニ大正九年ニ至リ町民競ツテ豫防接種ヲ懇望スルニ至リタルモノナリ

三、施設ノ内容

豫防接種ヲ施行シタルハ第一回千二百人第二回六百人第三回千四百人計三千二百人ナリ
四、實施効果ノ説明

大正九年豫防接種ヲ施行シタル後今大正十年五月ニ至ルモ患者ノ發生ヲ見ス

施設實施前後ノ衛生狀況

施設實施以前	同	同	同	備考
現住戸數 二、三八〇	同	同	同	備考
現住人口 一、二五六四	同	同	同	
總死亡數 三七七	同	同	同	
人口千ニ對スル死亡數 三〇〇〇	同	同	同	
腸「チフス」患者數 三	同	同	同	
人口萬ニ對スル患者數 二、三九	同	同	同	
腸「チフス」死亡數 三	同	同	同	備考
患者百ニ對スル死亡數 一七、二四	同	同	同	
現住戸數 二、四〇〇	同	同	同	
現住人口 一、三四五〇	同	同	同	
總死亡數 二〇五	同	同	同	
人口千ニ對スル死亡數 三〇〇〇	同	同	同	
腸「チフス」患者數 二九	同	同	同	備考
人口萬ニ對スル患者數 二、五六	同	同	同	
腸「チフス」死亡數 五	同	同	同	
患者百ニ對スル死亡數 一七、二四	同	同	同	
現住戸數 二、四六六	同	同	同	
現住人口 一、三、六七〇	同	同	同	
總死亡數 二八七	同	同	同	備考
人口千ニ對スル死亡數 二、〇〇	同	同	同	
腸「チフス」患者數 三	同	同	同	
人口萬ニ對スル患者數 三、三六	同	同	同	
腸「チフス」死亡數 七	同	同	同	
患者百ニ對スル死亡數 二、二五八	同	同	同	

第十例 愛知縣知多郡野間村

一、施行ノ時

大正七年五月及大正八、九年ノ同上ノ月次

二、施行スルニ至リシ由來

野間村大字奥田ニ於テハ年々多數患者ヲ出シタルヲ以テ豫防接種ヲ施行スルニ至レリ

三、實施効果ノ説明

豫防接種施行後大正九年ニハ全ク患者ノ發生ヲ見サルヲ以テ充分効果アリタルヲ認ム

施設實施前後ノ衛生狀況

施設實施以前	同	同	同	備考
現住戸數 一、二二五	同	同	同	備考
現住人口 五、二〇二	同	同	同	
總死亡數 一三一	同	同	同	
人口千ニ對スル死亡數 二五、一八	同	同	同	
腸「チフス」患者數 一〇	同	同	同	
人口萬ニ對スル患者數 一九、二二	同	同	同	
腸「チフス」死亡數 三	同	同	同	備考
患者百ニ對スル死亡數 三〇〇〇	同	同	同	
現住戸數 一、二一〇	同	同	同	
現住人口 五、三九〇	同	同	同	
總死亡數 一二六	同	同	同	
人口千ニ對スル死亡數 二八、五三	同	同	同	
腸「チフス」患者數 二七	同	同	同	備考
人口萬ニ對スル患者數 五〇〇九	同	同	同	
腸「チフス」死亡數 八	同	同	同	
患者百ニ對スル死亡數 二九、六二	同	同	同	
現住戸數 一、一〇五	同	同	同	
現住人口 五、三九八	同	同	同	
總死亡數 一五四	同	同	同	備考
人口千ニ對スル死亡數 二〇、三七	同	同	同	
腸「チフス」患者數 四	同	同	同	
人口萬ニ對スル患者數 四、七一	同	同	同	
腸「チフス」死亡數 二	同	同	同	
患者百ニ對スル死亡數 五〇〇〇	同	同	同	

第十一例 静岡縣田方郡伊東町

一、施行ノ時

大正九年五月中旬ヨリ同年六月中旬迄

二、施行スルニ至リシ由來
 伊東町ニ於テハ大正八年中一〇三名ノ患者ヲ出シ、翌大正九年再ヒ流行ノ徴アリシヲ以テナリ
 三、施行ノ内容
 町費ヲ以テ感作腸チフスワクチンヲ購入シ警察醫並ニ町醫ヲシテ殆ト強制的ニ施行セシメタ
 リ、被接種人員一、一九二人
 四、實施効果ノ説明
 右豫防接種施行後ハ患者ノ發生漸ク減少スルニ至リ、大正十年ノ如キハ七月十八日迄ニ二十三
 名ノ發生ニ過キス

施設實施前後ノ衛生狀況

現住人口 現住人口 總死亡數 人口千ニ對スル死亡數 腸「チフス」患者數 人口萬ニ對スル患者數 腸「チフス」死亡數 患者百ニ對スル死亡數	施設實施以前				同上以後 (七月十八日迄)	備考
	大正六年	同七年	同八年	同九年		
一、九六一	二、二一七	二、二二五	二、一七〇	二、二五四		
一、七六三	一、九八九	二、二六〇	一、四九八	二、四九八		
二二二	二二八	二二六	三〇五	一四〇		
一八・〇三	一九・〇二	一八・四三	二四・四〇	一一・二〇		
三	五	一〇三	一四七	二二		
二・五五	四・一七	八四・〇一	二七・六二	一八・四〇		
一	一	九	二二	四		
三三・三三	二〇・〇〇	八・七四	一四・九四	一七・三九		

第十二例 山形縣飽海郡上田村

一、施行ノ時
 自大正二年二月至同三年三月

二、施行スルニ至リシ由來
 本村ハ明治四十一年ヨリ患者ノ發生年々増加ノ傾向アリ、同四十四年ニハ患者二十名、大正元年
 ニハ同二十七名ヲ出シ、遂次増加ノ傾向アリシヲ以テ豫防接種ヲ施行スルニ至レリ

三、施設ノ内容
 縣警察醫ヲ派シ村當局並ニ衛生組合ヲ指導シ村醫ト共ニ一般村民ニ豫防接種ヲ施行セリ、其ノ
 人員左ノ如シ

村名	部落名	接種人員			施行月日
		第一回	第二回	第三回	
上田村	大字吉田、安田、菊穂	四二八	四〇四	三九八	自大正二年二月
同村	大字吉田、新田、鶴田、上野、曾根、菊穂	七二九	六三七	六二八	至同三年三月
計		一、一五七	一、〇四一	一、〇二六	

尙一般ニ豫防接種ノ費用ニ付キテハ之ニ要シタル村費ニ對シ五分ノ一ノ縣補助ヲ與フルコト
 トナリ居レリ

四、實施効果ノ説明
 以上ノ如ク同村ニ於テハ二箇年ニ亘リ村民一、〇二六名ニ對シ豫防接種ヲ施行セル結果其ノ後
 大正九年迄患者ノ發生ヲ見サルニ至レリ

施設實施前後ノ衛生狀況

種別	施設實施以前							施設實施以後						
	明治四十四年	大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	
現住戸數	三二四	三二四	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	
現住人口	二、五四九	二、五九四	二、五六三	二、六〇八	二、六六五	二、六〇一	二、六一〇	二、六一九	二、六一九	二、六一九	二、六一九	二、六一九	二、六一九	
總死亡數	五四	五九	四八	七〇	三	五〇	六九	六一	六一	六一	六一	六一	六一	
人口千ニ對スル死亡數	二・一八	二・二七	一・八七	二・六八	一・四六	一・九三	二・六四	二・三九	二・三九	二・三九	二・三九	二・三九	二・三九	
腸「チフス」患者數	二二	二七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
人口萬ニ對スル患者數	八・六三	一〇・〇九	一・〇四	三・八三	一・四六	一・九三	二・六四	二・三九	二・三九	二・三九	二・三九	二・三九	二・三九	
腸「チフス」死亡數	五	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
患者百ニ對スル死亡數	二・三七	二・九六	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	

第十三例

岡山縣上房郡中津井村大字下中津井字市場
大字上中津井字定及藤田部落

一、施行ノ時

大正六年三月十四日ヨリ十日間

二、施行スルニ至リシ由來

大正五年ヨリ同六年ニ亘リ腸チフス流行猖獗ヲ極メタル爲メナリ

三、施行ノ内容

發生部落及患者ト交通シタルモノ全部ニ豫防接種ヲ施行セリ

四、實施効果ノ説明

實施以後ハ患者發生セス

施設實施前後ノ衛生狀況

種別	施設實施以前			同以後			備考
	大正五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	
現住戸數	四四二	四四六	四四四	四四四	四四九	四四九	
現住人口	二、四三三	二、四四五	二、一六五	二、一八六	二、一九三	二、一九三	
總死亡數	六〇	六四	八四	五二	六七	六七	
人口千ニ對スル死亡數	二・四六	二・六八	三・八八	二・三九	三・〇五	三・〇五	
腸「チフス」患者數	八	四	一	一	一	一	
人口萬ニ對スル患者數	三・三八	一・六三	四・六二	一・〇四	一・〇四	一・〇四	
腸「チフス」死亡數	三	一	一	一	一	一	
患者百ニ對スル死亡數	三・七五	二・五〇	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	

第十四例

高知縣幡多郡山奈村

一、施行ノ時

大正六年四月第一回 同七年九月十月第二回

二、施行スルニ至リシ由來

大正五年十八名ノ患者發生シ翌大正六年モ引續キ一月三日ヨリ同十三日ニ至ル間ニ於テ二名ノ患者發生シ、續發ノ虞アリシヲ以テナリ

三、施行ノ内容

大正六年四月同村全部ニ亘リ村民約千八百人ニ對シ第一回ノ豫防注射ヲ施行シ、翌大正七年亦

村民千三百人ニ對シ第二回ノ豫防接種ヲ施行セリ
四、實施効果ノ説明

大正六年四月第一回豫防接種施行後同年中ハ二名ノ患者發生セルニ過キス、翌大正七年ハ全ク患者發生ヲ見ス

施行實施前後ノ衛生狀況

現住人口數 現住人口數 總死亡數 人口千ニ對スル死亡數 腸「チフス」患者數 人口萬ニ對スル患者數 腸「チフス」死亡數 患者百ニ對スル死亡數	施設實施以前		同		以後		備考
	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年		
現住人口數	四五四	四五四	四五四	四五四	四五四		
現住人口數	二、六七六	二、五九六	二、六五八	二、六七六	二、四四七		
總死亡數	五八	五〇	七三	六九	六七		
人口千ニ對スル死亡數	二、二六七	一、九二六	二、七四六	二、五七八	二、七三八		
腸「チフス」患者數	一八	四	四	六	六		
人口萬ニ對スル患者數	六七、二六	一五、四一	二五、七八	二五、七八	二七、三八		
腸「チフス」死亡數	三	一	一	一	一		
患者百ニ對スル死亡數	一六、六七	二五、〇〇					

第十五例 福岡縣遠賀郡淺木村

一、施行ノ時

豫防接種第一回大正六年九月三、四日、同第二回九月八、九日

二、施行スルニ至リシ由來

大正三年一名、同四年六名、同五年十名ノ患者發生シ、一般消毒的豫防撲滅方法ヲ勵行スルモ撲滅

三、施行ノ内容

セサルヲ以テ豫防接種ヲ施行スルニ至レリ
同村住民中六十歳以上並ニ四歳以下ノ者五百六十四名ヲ除キ一千三百九十二名ニ對シテ豫防接種ヲ施行スルコトトシテ着手セシニ、右ノ内三十八名ハ折柄病中ナリシト、五十名ハ旅行中ナリシトニ依リ、残り一千三百四名ニ對シテ實施セリ、第二回目ニ至リ更ニ三十二名ハ事故ノ爲中止セシカ其ノ結果見ルヘキモノアリシヲ以テ、大正七年八月村民ハ進ンテ更ニ全部ニ接種施行セリ

四、實施效果ノ説明

大正四年患者六名ノ内五名、大正五年同十名ノ内九名ハ何レモ八月以後ノ發病者ニシテ大正八年一回接種者一名、同九年二回接種者四名發病シ居ルモ、大正十年ハ五月迄ニ未タ患者發生ヲ見ス、大正九年ニ四名ノ患者發生アリシハ疑ナキニアラサルモ大體ニ於テ相當效果アリシモノト思料ス

接種實施前後ノ衛生狀況 () 内ハ接種ノ回数ヲ示シタルモノ

現住人口數 現住人口數 總死亡數 人口千ニ對スル死亡數	接 種 以 前		接 種 以 後		備 考
	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	
現住人口數	三三三	三二五	三三五	三三〇	
現住人口數	二、一四一	二、一八一	二、一四六	一、九五六	
總死亡數	四一	五七	五〇	四八	
人口千ニ對スル死亡數	一、九一五	二、六二三	二、三二九	二、四五四	

(ハ) 下水ノ改良、浚渫

東京市ニ於テハ鶴巻町ノ下水溝ヲ改良シテ其ノ幅員、深サヲ大ニシ江戶川ニ流下セシムルノ方針ニヨリ大正八年春起工シテ翌九年初夏ノ候之カ完成ヲナシタルカ、之ニ依リテ同町ハ大雨ノ際ト雖浸水ノ厄ヲ免ルルコトナリタリ

尙所轄警察官署ニ於テ専務警察官ヲ置キ、地先下水ノ改良ニ當ラシメ又町内ノ地主ヲ勸誘シテ下水溝ヲ改造セシムルノ外、區役所ト交渉シテ鶴巻町ニ限り毎月一回以上公私共下水ノ浚渫ヲ施行スルコトトシ大正八年以降實行シタリ

四、實施効果ノ説明

以上ノ如ク豫防措置ヲ實施セシ結果、大正六七年ニ於テ相當ノ流行ヲ見タルモ、同八年以降ハ一方ニ人口ノ増加シタルニ反シ却テ患者ハ減少シ、殊ニ同十年ニ於テハ一二月ノ候管内ノ他方面ニハ極メテ患者ノ發生多キニ拘ラス僅々二名ノ患者ヲ出シタルニ過キス、殊ニ五、六月ニ於テハ既往四年間多數ノ患者ヲ出シタルニ本年ハ一名モ之カ發生ヲ見サルハ全ク上記ノ如ク上水ノ普及、下水改良浚渫其ノ他町民ノ此方面ニ注意ヲ拂フニ至リタル結果ナルヘシト思惟セラレ

施設前後ノ衛生狀況

現住人口	施設實施以前			同以後		
	大正六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年
現住人口	二、〇九三	二、一〇三	二、一〇八	二、一〇三	二、一〇四	二、一〇四
總死亡數	九、一九四	九、四五四	一〇、一三三	一〇、一三三	一〇、六九四	一〇、六九四

考

總死亡數	施設實施以前		同以後	
	大正六年	同七年	同八年	同九年
總死亡數	二、四二一	三、〇九	二、四八	三、三〇
人口千ニ對スル死亡數	二六・三二	三三・六八	二四・二四	三〇・八六
腸「チフス」患者數	一一〇	一四〇	九二	七五
人口萬ニ對スル患者數	一一・六四	一四・〇八	八九・九一	七〇・一三
腸「チフス」死亡數	一八	三四	一五	二〇
患者百ニ對スル死亡數	一六・三六	二四・二九	一六・三〇	二六・六七
上水使用栓數	二七八	三三五	四〇九	四八六
同上戶數	六三七	一、四五	一、五九八	一、六一九

第二例 大阪府大阪市

水道施設前後ノ衛生狀況

現住人口	施設實施以前					備考
	明治二十五年	同二十六年	同二十七年	同二十八年	同二十九年	
現住人口	九、八八五	九、八八五	九、八八五	九、八八五	九、八八五	明治三十年ニ於テ戸數及人口ノ増加セルハ市ノ行政區劃ヲ擴張セシメタリ
總死亡數	二、二八八	二、二八八	二、二八八	二、二八八	二、二八八	
人口千ニ對スル死亡數	二三・〇	二三・〇	二三・〇	二三・〇	二三・〇	
腸「チフス」患者數	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	
人口萬ニ對スル患者數	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	
腸「チフス」死亡數	一七	一七	一七	一七	一七	
患者百ニ對スル死亡數	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	
同上戶數	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	
同上	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	
同上	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	

第三例 長崎縣佐世保市

一 施行ノ時

明治四十年十月一日

二 施行スルニ至リシ由來

佐世保市ハ鎮守府設置以來頓ニ發展シタル爲下水道ハ甚タ不完全ニシテ從來飲料ニ供シタル在來ノ泉水又ハ井水ハ漸次汚濁シ飲料ニ適セサル傾向ヲ生スルニ至リ逐次人口ノ増加ニ伴ヒ幾多傳染病續發シ殊ニ腸チフスノ如キハ明治三十七年以來猛烈ナル勢ヲ以テ全市ニ蔓延シ慘害ヲ逞フスルニ至レリ時恰モ日露戰役ニ際シ同市ハ海軍ノ策源地タル關係ト軍港衛生上下水道改善ノ急務ヲ認メ直ニ之カ實行ヲナスト共ニ細菌検査所ヲ設置シテ患家及其ノ附近ノ糞便検査ヲ行ヒ以テ病毒ノ檢索ニ努メ尙一面飲料水ノ水質検査ヲ行ヒ不良水ノ飲用ヲ禁シタル結果明治三十八年迄ハ其ノ成績ノ見ルヘキモノナカリシモ翌三十九年ハ著シク患者減少スルニ至レリ之ヨリ先明治三十八年鎮守府ニ於テ上水道擴張ノ舉アリシヲ以テ市ハ其ノ分與ヲ申請シ之カ許可ヲ得テ現今ニ至ルマテ之カ給水ヲ受ケツツアリ

三 施設ノ内容

同市水道ハ上述ノ如ク海軍水道アリ濾過水ノ分與ヲ受クルノ目的ヲ以テ明治三十八年給水鐵管ノ敷設ニ著手シ翌四十年十月ヨリ上水ヲ配給セリ給水狀況ハ左表ノ如クニシテ需要者日ニ増加スルノ現況ナルモ土地ノ狀況ニ依リ上水道ノ引用ヲ受クル能ハサルモノアル状態ナルカ同市ニ於ケル細菌検査所ハ明治三十七年九月設置シ技手一名助手一名専ラ患者其ノ家族竝ニ附近住民ノ檢便ヲ行ヒ病原體保有者及患者ノ早期發見ニ努メ尙給水區域外ノ井水ニ對シテハ

毎年化學的竝ニ細菌學的検査ヲ行ヒツツアリ
給水表 (大正十年四月末現在)

種別	給	檢	數	戶	數	使	用	水	量
專用給水	私共用	公共用	船給	計					
	二、一五〇				二、二二六				二四四、一九九
	一、九〇二				四、一三三				一三四、七九七
	三七六				八、三九四				九七、七六四
	二				一四、六五三				四、六〇三
	四、四二一				一四、六五三				四八一、三六三

四 實施效果ノ説明

以上ノ水道敷設後ニ於ケル效果ノ顯著ナリシコトハ別表ニ依リテ瞭ナルモ最近ニ於テ再ヒ該病ノ擡頭シ來ルノ感アルヲ以テ市ニ於テモ水道ノ普及ヲ計ルト共ニ公私下水道ノ新設改良ヲ企圖シ尙市民ノ衛生思想ヲ向上セシメムコトニ努メ居レリ
大正八年中同市庵ノ浦免ニ於テ腸チフス患者發生漸次蔓生途ニ二十五名ノ多數ニ上リタルヲ以テ同部落ニ於ケル井水ノ検査ヲ爲シテ不良水ノ使用ヲ嚴禁スルト共ニ部落民全部ノ檢便ヲ行ヒ尙一面該病豫防接種ヲ勵行シタル結果遂ニ終熄スルニ至リ爾來全ク患者ノ發生ヲ見サルニ至レリ

現住戸數	施設實施以前				施設實施以後					備考						
	明治三十七年	同三十八年	同三十九年	同四十年	同四十年	同四十年	同四十年	大正元年	同二年		同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年
11,110	11,110	11,110	11,110	11,110	11,110	11,110	11,110	11,110	11,110	11,110	11,110	11,110	11,110	11,110	11,110	11,110

二、施行スルニ至リシ由來

同部落ハ漁村ニシテ古來飲使用水ニ不便ノ地ナリ、只越ケ濱(海)ニ面セル山腹ノ一ヶ處ヨリ湧出スル水ヲ飲用ニ供シ、天水ヲ貯ヘテ雜用ニ使用セシモ、大正四年以來水量劇減セル爲ナリ

三、施設ノ内容

簡易水道ヲ敷設セルモノニシテ即水源地ヨリ徑尺余ノ土管ヲ以テ運水シ越ケ濱ノ部落處々ニ水槽ヲ設ケ各自使用シ居レリ

四、實施效果ノ説明

施設實施前後ノ衛生狀況

現住人口數 現住人口數 總死亡數 人口千ニ對スル死亡數 腸「チフス」患者數 人口萬ニ對スル患者數 腸「チフス」死亡數 患者百ニ對スル死亡數	施設實施以前				同上以後			備考
	大正三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	
	1,140	1,140	1,140	1,140	1,140	1,140	1,140	大正七年以來死亡數ノ増加セルハ流感ニ因ル
	110	110	110	110	110	110	110	
	110	110	110	110	110	110	110	
	110	110	110	110	110	110	110	
	110	110	110	110	110	110	110	
	110	110	110	110	110	110	110	
	110	110	110	110	110	110	110	

第六例 香川縣三豐郡大野原村宮ノ下竝ニ殘水部落

一、施行ノ時

大正八年八月二十三日ヨリ同月三十日迄

二、施行スルニ至リシ由來

本村ニ於テハ大正五年ニ一名ノ腸「チフス」患者發生セシニ過キサリシニ、大正八年七月下旬ニ至リ村内各部落ニ患者發生シ、特ニ宮ノ下及殘水部落ニ於テハ其ノ發生多ク、流行ノ狀況ヨリシテ飲使用水ト密接ノ關係アリト認メタルヲ以テ、同部落内ニ於ケル流水ノ使用ヲ禁止シ、井戸ニ對シテハ八月二十三日ヨリ同月三十日迄二日毎ニ「クロール」石灰ノ投入ヲ行ヒシニ、爾後患者ノ發生衰ヘ九月二日ヲ以テ終熄セリ

三、施設ノ内容

發生部落内ニ於ケル溝渠ノ流水ノ使用ヲ禁止シ、井戸百三十一個ニ對シテハ八月二十三日ヨリ同月三十日迄二日毎ニ井水一石ニ對シ「クロール」石灰一匁、鹽酸十瓦ノ割合ニ投入攪拌シ三時間乃至四時間後使用セシム

四、施設效果ノ説明

大正八年度ニ於ケル右施設施行部落ノ狀況ハ左表ノ如クニシテ、本豫防施設施行部落ト他ノ部落トノ患者發生狀況ヲ比較スルニ左表ノ如クニシテ其ノ成績著シク良好ナルヲ認ム

イ、殘水宮ノ下部落 (豫防施設施行部落)

月	日	發生患者數
七月	一日	五
	五日	七
	七日	十二
	十八日	二十
	二十一日	二十一
	二十三日	二十三
	二十七日	二十七
八月	二日	七
	八日	十
	十一日	十一
	十二日	十二
	十三日	十三
	十四日	十四
	十五日	十五
九月	一日	十六
	二十日	二十二
	二十二日	二十三
	二十五日	二十五
	二十七日	二十七
	二十九日	二十九
	三十日	三十
十月	五日	三
	十二日	三
	二十日	三

口、施設施行以外ノ部落

月	日	發生患者數
三月	二十日	一
八月	三日	七
	七日	八
	十五日	十五
	十七日	十七
	十八日	十八
	二十日	二十
	二十一日	二十一
	三十一日	三十一
九月	一日	七
	十三日	十三
	十五日	十五
	二十二日	二十二
十月	五日	七
	十七日	十七

施設實施前後ノ衛生狀況

現住人口	現住人口	總死亡數	腸「チフス」患者數	人口萬ニ對スル患者數	腸「チフス」死亡數	患者百ニ對スル死亡數	施設實施以前				備考
							大正六年	同七年	同八年	同九年	
一四五	一三八	八〇	一一	一一	一一	一一	一四一	一四一	一四一	一四一	
九〇	七七一	九	一一	一一	一一	一一	七八九	七八九	七八九	七八九	
一一一	一五五六	一一	一一	一一	一一	一一	一一八	一一八	一一八	一一八	
一一一	二二九七	一一	一一	一一	一一	一一	二三八	二三八	二三八	二三八	
一一一	五九六四	一一	一一	一一	一一	一一	四一	四一	四一	四一	
一一一	一四六三	一一	一一	一一	一一	一一	一一八	一一八	一一八	一一八	
一一一	一一八五	一一	一一	一一	一一	一一	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	

第七例 佐賀縣佐賀市及西松浦郡伊萬里町

一、施行ノ時

佐賀市ハ大正五年十一月

西松浦郡伊萬里町ハ大正三年四月

二、施行スルニ至リシ由來及其ノ内容

佐賀市及伊萬里町ハ飲料水ニ河水ヲ使用シ居タル爲メ腸チフス(伊萬里熱又ハ佐賀熱ト稱スル風土病)及赤痢患者等多數發生シ居タルヲ以テ之カ防止ヲ圖ルノミナラス其ノ他一般衛生上ノ施設トシテ上水道ヲ敷設スルニ至レリ

三、實施效果ノ説明

伊萬里町ニ於テハ水道敷設前ハ伊萬里熱ト稱シ多數ノ患者發生シ居タルモ敷設後ハ同患者全

ク發生セサルニ至レリ

佐賀市ハ水道敷設後ナル大正六、七年頃迄ハ水道水鑿井式水道ナルヲ以テ其ノ水質惡シト稱シ一般ニ使用セサリシモ、大正八、九年ニ至リ使用者普及スルニ至リテ腸チフス患者ノ如キモ減少スルニ至レリ

佐賀市ニ於ケル水道敷設前後ノ衛生狀況

現住人口數	施設實施以前				施設實施以後			
	大正三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年
五、六八四	五、九一八	六、〇〇二	六、〇〇二	五、九八四	六、一三〇	六、三五〇	六、四四七	
三七、〇五一	三八、六三〇	三七、六六八	三八、六八六	三七、八六八	三八、二二二	三三、五二九	三七、七七四	
八〇一	七五九	六九一	七五三	九四七	六六六	五六九	六〇七	
二、二六二	一九、六四	一八、三四	一九、四六	二五〇一	一七、四三	一六、九七	一六、〇七	
九	六〇	二〇	二八	二四	四	二八	二二	
二、四三三	一五、五三	五、三一	七、七四	六、三四	一〇、五	八、三五	五、八二	
三	七	五	九	五	一〇	一〇	三	
三、三三三	一一、六七	二五、〇〇	三三、一四	二〇、八三	三三、七一	三五、七一	一三、六四	

伊萬里町ハ水道敷設後患者全ク發生セサルニ至レリ

三 使用水ノ改良ニ因ルモノ (一例)

栃木縣芳賀郡真岡町

一、施行ノ時

大正九年六月上旬

二、施行スルニ至リシ由來

芳賀郡真岡町大字荒町ニ大正九年三月二十日俄然腸チフス患者一名發生、更ニ同月下旬二名續發、超ヘテ四月ニ入り近隣相次テ同病ニ罹リ其ノ數實ニ五十八名ヲ算シ、尙益々猖獗ヲ極メントスル模様ナリシニ由ル

三、施設ノ内容

檢病的戸口調査ヲ勵行シ患者ノ早期發見ニ努メ、消毒的の清潔法ヲ施行シ、豫防接種ヲ督勵シ、糞便ニ石灰乳撒布ヲ勵行シ、其ノ他病原體保有者ノ檢索ニ努トムル等豫防制遏ニ全カヲ傾注セシト雖尙終熄スルニ至ラス、茲ニ於テ初發患者ハ同町ヲ貫流スル小流ノ上位ニ位シ該地方民ハ常ニ同流ニ於テ飲食器具等ヲ洗滌スルノ習慣アルニ依リ或ハ水路關係ニ因ル傳染ニハアラサルカト思料シ、大正九年六月上旬右小流附近民ニ對シ、河川ニ依ル病毒傳播ノ恐ルヘキヲ訓話シ、且所々ニ立札ヲ爲シテ河川水使用ノ危險ナルヲ標示シ、傍ラ町役場吏員、衛生役員及警察官吏交々其ノ流域ヲ巡視シ、苟モ該流水ヲ使用スル者アラシカ、其ノ危險ヲ力説戒告シ以テ河川水ニ因ル病毒傳播ノ防止ニ努メタリ

四、實施效果ノ説明

河川水使用上ニ就テ戒告ヲ與ヘサリシ以前ニ於テハ、殆ト停止スル處ヲ知ラサル迄ニ流行猖獗ヲ極メタリシ本病モ、河川水使用セサルニ至リシ後ハ逐日發生數減少シテ遂ニ全ク終熄スルニ至リタリ、之レ畢竟本施設ノ効果偉大ナリシモノト認メラル

四 下水ノ改良ニ因ルモノ (一例)

埼玉縣北足立郡浦和町

一 施行ノ時

自大正元年至大正八年

二 施行スルニ至リシ由來

浦和町ハ從來排水甚不完全ニシテ殊ニ市街地ノ中央ニ低地アリテ降雨ノ都度洪水シ、爲ニ蒸發及地中滲透スルヲ俟ツニアラサレハ土地ノ乾燥ヲ見ル能ハサル狀況ニシテ、明治四十三年霖雨ノ際ノ如キハ數十町歩ノ區域ニ三尺乃至九尺洪水シ、從ツテ浸水家屋多數アリテ十數日後ニ於テ漸ク乾水スルヲ得タリト雖、之ニ起因シテ同年ハ腸チフス患者五十四名赤痢患者九名ヲ發生セルハ古來未ダ曾テ見サリシ所ナリ、茲ニ於テ町當局ハ下水工事急施ノ必要ヲ感シ、居ル折柄縣ノ獎勵スル所アリ、爾來着々準備ヲ爲シ、明治四十四年漸ク之レカ施行方針確立シテ縣ノ認可ヲ受ケ翌大正元年ヨリ同八年ニ亘リ事業ヲ繼續シ以テ完成シタルモノナルカ、其ノ効果洵ニ見ルヘキモノアリ、爾來同町ハ殆ト傳染病ノ災厄ヲ免レタル實況ナルヲ以テ他ノ町村モ之ニ倣ヒ下水工事實施ノ氣運ニ向ヒツツアリ

三 施行ノ内容

町ノ中央ニ煉瓦一重又ハ二重卷内徑三尺又ハ二尺暗渠二百二十四間ヲ貫通シテ之ヲ大幹線ト爲シ、地先下水ハコンクリート明渠四千二百間及適所ニ吸込柵ヲ以テ大幹線ニ联接シ、各溝渠ニ

ハ適當ノ勾配ヲ附シテ排水ニ便ナラシム

四 實施效果ノ説明

別表ニ示スカ如ク實施前ニハ患者發生最少數ノ年ト雖數名ヲ下ラサリシカ、實施後ニ於テハ初年ニ僅ニ三名ノ患者發生シタルノミニシテ、次年ハ一名ヲモ出ササル實況ナリ、下水工事ノ完成ハ豫防上甚大ナル效果ヲ奏スルモノト認ム、加之通路泥濘ヲ來スコトナク從ツテ道路保全上不尠利益アリ、故ニ之ニ隨伴シテ交通運輸上ノ便益ハ是亦測リ知ルヘカラサルモノアリ

施設實施前後ノ衛生狀況

現住人口數	現住人口對死數	腸チフス患者數	人口對死數	腸チフス死亡數	患者對死數	施設實施以前					備考						
						明治十四年	大正元年	同二年	同三年	同四年		同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	
1,150	78	1	100	1	100	1,150	78	1	100	1	100	1,150	78	1	100	1	100
1,150	78	1	100	1	100	1,150	78	1	100	1	100	1,150	78	1	100	1	100
1,150	78	1	100	1	100	1,150	78	1	100	1	100	1,150	78	1	100	1	100
1,150	78	1	100	1	100	1,150	78	1	100	1	100	1,150	78	1	100	1	100
1,150	78	1	100	1	100	1,150	78	1	100	1	100	1,150	78	1	100	1	100
1,150	78	1	100	1	100	1,150	78	1	100	1	100	1,150	78	1	100	1	100
1,150	78	1	100	1	100	1,150	78	1	100	1	100	1,150	78	1	100	1	100
1,150	78	1	100	1	100	1,150	78	1	100	1	100	1,150	78	1	100	1	100

大正九年死亡者多キハ流感ノ爲メナリ

五 病原體保有者ノ調査ニ因ルモノ (一例)

熊本縣玉名郡腹赤村清源寺、上沖洲、腹赤平原、新町ノ五部落ヨリ成ル